



平成 20 年 2 月 15 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 牛嶋 英揚
(コード番号：8734)
問合せ先 専務取締役管理部門長 小島 健太郎
(電話 03-5447-8400)

平成 20 年 3 月期 1 月度の月末運用資産残高及び運用収益率のお知らせ

今期（平成 20 年 3 月期）1 月度のプログラム別月末運用資産残高及び運用収益率につきまして、添付のとおりお知らせいたします。

1 月は、ドル相場が乱高下したことや、米国を中心に株価が下落した影響で、商品価格は月中に大きく下落する場面がありました。原油価格が在庫増を背景に軟調に推移しましたが、ドル安傾向が強まったことで金価格が上昇し、生産障害懸念から白金やアルミなどが上昇したことに加え、小麦を中心に穀物価格が堅調に推移したことで、商品価格全体ではほぼ横ばいで推移しました。

当社が公表しておりますアストマックス商品指数（AMCI）は、円高の影響を受け、前月末の 354.359 に対し、1 月末は 347.621 と約 1.9% の下落となりました。

エネルギー市場では、海外原油価格が、米国での石油製品在庫の増加や米国を中心とする先進国の景気減速懸念が弱材料視されたことで、反落する展開となりました。東京エネルギー市場では海外原油価格の下落に加え、為替相場が円高に振れたことで軟調に推移しました。

貴金属市場では、米ドルの軟調さが引き続き支援材料となり、月末に掛けて上昇基調を強める形となりました。東京市場でも円高基調を海外市場の上昇が相殺し、高値を更新しました。また、白金が主要生産国の南アフリカでの電力供給不足による減産懸念を背景に史上最高値を更新し、東京市場でも上昇基調を強める形となりました。

非鉄金属市場では、アルミが米国景気の不透明感などを背景に月初は軟調に推移しましたが、月末には主要生産国の中国での豪雪による生産減が懸念され、上昇に転じました。穀物市場では、大豆および小麦が需給逼迫懸念を背景に高値圏で推移しました。

株式市場では、年末年始に発表された昨年 12 月の米製造業景況指数が大幅に悪化したニュースをうけ、米国発の世界景気後退懸念が台頭、世界株安の展開となりました。本邦株式市場でも、TOPIX が月中に一時 1219.95 ポイントまで下げる局面がありましたが、22 日に FRB が実施した 0.75% の緊急利下げ後に反発した結果、TOPIX は前月末の 1475.68 から、1 月末 1346.31 への下落となりました。

こうした市場環境の中、当社が運用する資産残高は前月比 1,991 百万円減（7.6%減、昨年 12 月末資産は、速報値からの修正あり）の 24,360 百万円となりました（一部資産の数字は、速報値を含む）。1 月の資産残高の減少は、主に、商品指数連動型で「利益確保目的」の解約があったこと及びこれに付

随する債券運用戦略の資産減少によるものでした。

尚、個別の運用資産残高、月次収益率は以下のとおりとなっております。

1. 運用資産残高

(単位：百万円)

プログラム名		平成19年 4月	平成19年 5月	平成19年 6月	平成19年 7月	平成19年 8月	平成19年 9月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,042	1,034	1,041	1,541	1,592	1,719
	アストプレリユード	281	270	255	230	0	—
	アストオプション	181	187	178	189	195	184
	AMCI	7,624	8,119	11,899	11,909	11,177	12,160
証券投資 顧問事業	アストオプション	20	19	19	19	19	0
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	315	—	—	—	—	—
	アストジェルズ	196	199	205	204	184	176
	債券運用戦略	7,915	9,618	16,932	17,199	16,188	17,674
	その他	3,047	3,067	3,098	3,201	3,065	2,981
合計		20,624	22,517	33,630	34,495	32,423	34,898

プログラム名		平成19年 10月	平成19年 11月	平成19年 12月	平成20年 1月	平成20年 2月	平成20年 3月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	1,704	1,720	2,726	2,483		
	アストプレリユード	—	—	—	—		
	アストオプション	173	178	400	401		
	AMCI	12,820	8,250	8,715	7,863		
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—	—	—		
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—	—	—		
	アストジェルズ	163	158	156	149		
	債券運用戦略	18,713	9,940	11,460	10,639		
	その他	3,002	2,987	2,893	2,824		
合計		36,578	23,235	26,352	24,360		

2. 運用収益率

プログラム名		平成 19 年 4 月	平成 19 年 5 月	平成 19 年 6 月	平成 19 年 7 月	平成 19 年 8 月	平成 19 年 9 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.19%	-0.55%	0.58%	0.13%	0.65%	0.34%
	アストプレリユード	-1.58%	-2.85%	-3.07%	-5.66%	-4.03%	—
	アストオプション	1.00%	3.03%	-4.74%	6.00%	3.08%	-15.50%
証券投資 顧問事業	アストオプション	0.06%	0.00%	-0.31%	-1.24%	0.80%	0.71%
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	0.06%	—	—	—	—	—
	アストジュエルズ	-1.20%	2.44%	3.33%	0.46%	-8.98%	-3.22%

プログラム名		平成 19 年 10 月	平成 19 年 11 月	平成 19 年 12 月	平成 20 年 1 月	平成 20 年 2 月	平成 20 年 3 月
商品投資 顧問事業	アストジェネシス	-0.88%	-0.61%	0.83%	1.86%		
	アストプレリユード	—	—	—	—		
	アストオプション	-6.03%	2.88%	0.59%	0.52%		
証券投資 顧問事業	アストオプション	—	—	—	—		
	ファイナンシャル・ アストシンフォニー	—	—	—	—		
	アストジュエルズ	-6.58%	-2.27%	-0.37%	-3.13%		

- (注) 1. 上記の数値は原則、毎月月初より 10 営業日までに開示いたします。
2. 運用資産残高は時価純資産額、または時価純資産額にノーショナル・エクイティ(想定運用資産)を加えたもので、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- * 先物市場を使った運用の場合、実際に証拠金として必要な資金が少額であることから、顧客によっては実際に預託する資金に想定運用資産を加えた資産額で運用する様に契約上取り決めることが多く、通常、この契約運用資産額が管理報酬の計算上のベースとなっています。この様に顧客との契約運用資産額のうち実際に資金が預託されていない金額をノーショナル・エクイティ(想定運用資産)と言います。
3. 複数の契約が存在する運用プログラムについては当該プログラムのコンポジットを作成し運用資産残高、運用収益率を算出しております。また、運用収益率は、成功報酬を伴う運用プログラムについてのみ掲載しております。
4. 「アストオプション」に関しては商品投資顧問事業と証券投資顧問事業の二つの事業部門にありますが、両運用プログラムのうち、証券先物等で運用するものを証券投資顧問事業に、商品及び金融先物やその他の運用のものを商品投資顧問事業に分類しております。
5. 総運用資産残高につきましては 1%以上の修正が生じた場合はその内容を開示いたします。

以上